

学習コーチ

解いて、直して、次の1問へ

問題作成・採点と、問題解説・追加質問・類題作成を一つのアプリで使う手順を案内します。



実際のアプリ画面。掲載例の教材・氏名・得点・日程は操作説明用です。

ユーザーズ・オペレーションマニュアル

画面を見ながら進める手順 / 保存と再開 / 困ったときの対処

CONTENTS

目的から探す

初めての方は最初から。操作中は必要な項目へ進んでください。

解答・解説の引き渡し	3	起動と前回の内容	4
1問を解いて、添削を受ける	5	画面と2つの学習の始め方	6
Google認証とモデルを準備する	7	科目・単元・レベルを選ぶ	8
6段階と自由作成を使い分ける	9	追加指示と教材を渡す	10
自分の問題をそのまま学習する	11	元の問題から類題を作る	12
問題を読み、ヒントを使う	13	解答ウィンドウで答える	14
紙の問題・答案を取り込む	15	採点・添削結果を読む	16
関連問題で弱点を確かめる	17	保存方法と出力ボタンを選ぶ	18
学習履歴とJSONで再開する	19	困ったときの確認順	20
毎日の起動・更新・終了	21	共通バーで問題解説を使う	22
解説する問題と資料を用意する	23	教科別の解説を読み分ける	24
資料を添えて追加質問する	25	解説から類題へ進む	26
解説の保存と再開	27	AI処理の進み具合と再実行	28
リリースノート	29		

この本の使い方

目次の項目はクリックできます。画面例はPC表示が中心です。画面が狭い場合は上部バーを横にスクロールし、説明にあるボタン名を目印にしてください。

番号付きの手順は上から順に操作します。青緑の図は操作の流れ、表は機能や保存方法の違い、黄色の欄は確認ポイントを示します。

01 / 学習コーチ

解答・解説の引き渡し

学習コーチで採点済みの場合は、「この問題を解説」で模範解答・添削理由・解説・関連知識も引き渡し、学習コーチ内の問題解説モードに表示します。未採点の場合は問題を受け取り、「解説を生成」で解説を作成します。

既存の解説を読む

受け取った模範解答と解説は、問題解説タブで確認できます。必要に応じて関連解説を開き、JSONで保管できます。

02 / 学習コーチ

起動と前回の内容

初回は設定済みのサンプルを表示します。2回目以降は前回作成した問題・結果を復元します。他アプリから問題を受け取った場合は、その問題を優先します。

前回の内容を再開する

同じ端末・同じブラウザ・同じアプリのURLで開いてください。問題・結果・添付資料を確認して操作を続けます。問題文に英作文と指定されている場合は、前回の教科表示より元問題の指定を優先します。

03 / 学習コーチ

1問を解いて、添削を受ける

問題を作る、答える、直す、もう一度試すという順で学習します。



1 認証とモデルを設定する

右上のアカウント・モデル表示からGoogle認証とGeminiモデルの指定を済ませます。

2 「問題設定」を開く

「AIで問題を作成」を選び、学年・教科・科目・単元を指定します。最初は単元を1つに絞ります。

3 レベルを選んで「問題を作成」

基礎を学び直す場合は超基礎や基本問題を選びます。生成された問題文・資料・条件を読みます。

4 「解答ウィンドウ」で答える

設問番号と対応させて解答を入力し、「採点・添削する」を押します。

5 改善点を1つ直す

採点・修正ポイントと答案の改善例を読み、直す箇所を決めます。関連問題で同じ力を確認できます。

最初から難しくし過ぎない

習っている範囲を選び、短い問題で操作に慣れます。採点結果の数字だけで終わらず、どう直すかま確認することが学習の区切りです。

画面と2つの学習の始め方

AIの出題と、自分が持っている問題の入力を選べます。



実画面：サンプル問題。問題設定・解答ウィンドウ・学習履歴は上部から開きます。

やりたいこと	入口	次の操作
単元の練習問題を作る	問題設定 → AIで問題を作成	科目・単元・レベルを選ぶ。
手元の問題を解く	問題設定 → 自分の問題を入力	問題を入れ「そのまま学習」を選ぶ。
似た問題を作る	自分の問題を入力 → 類題を作成	元問題の判定後に難易度を指定する。
問題の解説を読む	上部の「この問題を解説」	問題解説アシスタントへ引き渡す。
前の結果を開く	学習履歴／JSON読み込み	Driveの記録または保存ファイルを選ぶ。

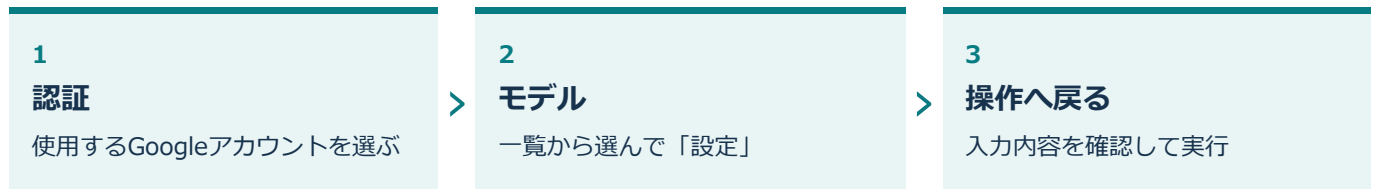
読みたいところを広く表示する

問題設定と学習履歴は必要なときだけ開きます。×、背景部分、Escキーで閉じられます。解答は独立したウィンドウで入力できます。

05 / 学習コーチ

Google認証とモデルを準備する

AIを使う前に、保存先のアカウントと使用モデルを確認します。



1 右上のアカウント・モデル表示を押す

「Google未認証」やアカウント名、Geminiモデル名があるボタンを開きます。

2 Google認証を完了する

設定・認証ボタンから認証画面を開きます。使用するアカウントと権限を確認して進みます。

3 モデルを選んで「設定」を押す

Geminiモデルの一覧から指定します。画面上部に選んだモデル名が表示されたことを確認します。

4 元の操作を実行する

入力画面へ戻り、生成・分析などのボタンを押します。入力が不足している場合は、その案内に従って補います。

こんなとき	確認すること
認証画面が開かない	ブラウザのポップアップ制限を確認し、許可後に認証ボタンを押し直します。
履歴が見つからない	保存時と同じGoogleアカウントか確認します。アカウントを変えると履歴の参照先も変わります。
モデルが選べない	通信状態を確認して設定を開き直します。一覧が取得できるまで実行を待ちます。

共有端末で使うとき

画面のアカウント名を毎回確認します。アカウント変更は設定内の切替操作を使い、履歴を開く前に切替先の名前を確認してください。

06 / 学習コーチ

科目・単元・レベルを選ぶ

何の力を練習するかを、出題前に決めます。

The screenshot shows the 'LESSON SETUP' interface. At the top, it says '今日の学びを段階に合わせる。' (Adjust today's learning by level). Below this, it explains that selecting a subject, unit, and level allows AI to create a problem set. There are two buttons: 'AIで問題を作成' (Create problem with AI) and '自分の問題を入力' (Enter my own problem). The '学年・目安' (Grade/Target) dropdown is set to '高校3年・大学受験' (High School 3rd Year / University Entrance). Under '科目' (Subject), '数学' (Math) is selected. The '単元' (Unit) section shows a search bar and buttons for '数I' (Math I), '数II' (Math II), '数III' (Math III), '数A' (Math A), '数B' (Math B), and '数C' (Math C). The '問題のレベル' (Problem Level) section has four options: '基本解説+超基礎問題 (10題)' (Basic explanation + super basic problem (10 questions)), '1問1答 (基本情報確認20題)' (1 question 1 answer (Basic information confirmation 20 questions)), '基本問題 (5題)' (Basic problem (5 questions)), and '応用問題 (3題)' (Application problem (3 questions)).

実画面：問題設定パネル。項目が多いときはパネル内をスクロールします。

1 学年・教科・科目を指定

国語、英語、数学、情報、理科、地理歴史、公民などから選びます。

2 単元を1つ以上選ぶ

単元名を押します。検索欄で絞り、「すべて選択」「解除」も使えます。複数の単元を選んだときは意図した範囲が見直します。

3 問題のレベルを選ぶ

次のページの表を参考に、今の理解に合う段階を選びます。

4 必要なら追加プロンプト

「図の読み取りを重点的に」など、練習の目的を補います。

英作文を選んだ場合

英作文専用設定で、文法運用・必修表現・実践の和文英訳、自由英作文などの形式と目標語数を確認します。選んだ形式に表示される範囲で調整します。

07 / 学習コーチ

6段階と自由作成を使い分ける

問題数と難しさを見ながら、練習の目的に合わせてます。

作成方法	内容	こんなとき
基本解説+超基礎問題	基本解説と超基礎10題。	まだ知識が定着していない。
1問1答	基本情報の確認20題。	用語・定義・公式を短く確かめたい。
基本問題	5題。単一の知識や公式を使う。	教科書水準の使い方を練習したい。
応用問題	3題。基本事項を組み合わせる。	誘導に沿って複数の知識を使いたい。
発展問題	2題。方針から組み立てる。	条件整理と解法選択を練習したい。
実践問題	1題。初見資料や融合的な課題。	入試・模試を想定した練習をしたい。
自由に問題作成	題数・構成・分量を追加プロンプトで指定。	教材や授業に合わせた問題が必要。

自由作成の指示例

「高校2年の数列。等差数列の基本問題を3題。各問は小問2つ。身近な場面を題材にし、図表が必要なときだけ付けてください。」のように、対象・題数・構成を指定します。

追加プロンプトは任意です

自由作成でも、空欄のまま選択した学年・科目・単元から問題を作成できます。細かい指示がある場合はTXT・Markdownの読み込みやテキストエディタを使うと編集しやすくなります。

追加指示と教材を渡す

授業の範囲や使いたい資料を、出題に反映させます。

1 追加プロンプトへ書く

テーマ、問い方、題数、設問番号、資料、分量などを指定します。曖昧な条件は具体的にします。

2 長い指示を読み込む

「ファイル読み出し」でTXT・Markdownを選ぶか、指示欄へドロップします。

3 テキストエディタで整える

移動・拡大縮小できる編集ウィンドウを使えます。編集内容は元の指示欄へ反映されます。

4 Driveの教材を参照させる

同じGoogleアカウントで閲覧できるDrive／DocsのファイルURLを指示に入れます。取得した内容が出題資料として使われます。

Drive参照	条件
対応するもの	PDF、画像、TXT、Markdown、Googleドキュメント、スプレッドシート、スライド。
サイズ・件数	1件50MB以下、最大5件、合計75MBまで。
対象外・失敗するもの	フォルダーURL、権限のないファイル、未対応形式。生成前のエラーを確認。

参照資料は必要なものだけ

教材のどの章や範囲を使うかも書きます。URLを貼る前に、右上の認証アカウントでその資料を開けるか確認してください。

09 / 学習コーチ

自分の問題をそのまま学習する

問題集や授業の問題を入力し、自分の解答を添削できます。

The screenshot shows the 'LESSON SETUP' interface. At the top, it says '今日の学びを段階に合わせる。' (Adjust today's learning in stages). Below this, it explains that users can add problems from text, images, PDF, camera, or paste, and then create problem sets for learning. There are two main buttons: 'AIで問題を作成' (Create problems with AI) and '自分の問題を入力' (Input your own problems). The 'Input your own problems' button is selected, leading to a section titled '01 問題を入力' (Input problem). This section has a text area for inputting questions, options, and explanations, and a '入力' (Input) button. Below the text area are buttons for '画像・PDF' (Image/PDF), 'リスニング音声' (Listening audio), and 'カメラで撮影' (Take photo with camera). There are also buttons for '貼り付け' (Paste) and '画面取込' (Screenshot). A note states that images, PDF, MP3, and MP4 can be dragged and dropped into the text area, and images can also be pasted from the clipboard. At the bottom, there are two options for how to use the inputted problems: 'そのまま学習' (Learn as is) and '問題を作成' (Create problem set). The 'Learn as is' option is selected, showing a description: '入力した問題に解答して採点します' (Answer the inputted problem and score it). The 'Create problem set' option shows: '同じ学習目標の新しい11題を作ります' (Create 11 new problems with the same learning goal). At the very bottom is a large red button labeled '入力した問題で学習' (Learn with inputted problems) with a right arrow.

1 入力方法を選ぶ

問題文を入力するか、画像・PDF、リスニング音声、カメラ、貼り付け、画面取込を使います。

2 対象を確認する

PDFはページ欄に例「1,3-5」を入力し、「確定」を押します。問題の条件や図表を欠かさず含めます。

3 「そのまま学習」を選ぶ

入力した問題に答え、採点を受ける方法です。画面の実行ボタンを押して問題を読み込みます。

4 表示された問題を照合する

設問番号、数式、資料、選択肢が元の問題と対応しているか見ます。

実画面：「自分の問題を入力」。そのまま学習するか類題を作るかを選びます。

リスニングを使う場合

MP3・MP4を問題資料に付けられます。MP4は音声トラックが対象です。問題文や選択肢も必要なら画像・PDFで付けます。

10 / 学習コーチ

元の問題から類題を作る

同じ学習目標を、違う問題で確かめます。



1 元の問題を入れる

「自分の問題を入力」で問題を用意し、「類題を作成」を選びます。PDFノートブックや問題解説モードから受け取る場合もあります。

2 判定された内容を確認する

元問題の科目・単元・レベルを確認し、必要な条件を整えます。

3 難易度を明示的に選ぶ

「基本」「より易しい」「同じくらい」「より難しい」「高難易度」から選びます。選択すると「問題を作成」を押せるようになります。

4 作成された類題を解く

元問題と同じ答えになるとは限りません。条件と設問を読み直して解答します。

問題解説アシスタントから受け取る場合

Google認証・Geminiモデルの設定済みなら自動で類題を作成します。未設定の場合も受け取った問題は保持されます。設定を完了し、「問題設定」の「問題を作成」を押してください。

科目が判定できない場合

元問題の科目・単元が判定できないときは作成を停止します。問題文と送信元の教科を確認し、再試行してください。英作文を数学などの別科目へ置き換えて作成することはありません。

図表のある問題

元の図形・表・グラフや添付画像も、学習の前提になります。類題の資料が新しい問題文と対応しているか確認してから取り組みます。

生成や読取に失敗した場合は、ログのエラーを確認します。文字が薄い・必要な条件が欠けている場合は、元資料を整えてから再試行します。

問題を読み、ヒントを使う

条件と解答形式を確認してから、解答へ進みます。

1 問題文と資料を読む

題数、小問、図表のラベル、単位、制約を確認します。画面例のように問題が長い場合は下へスクロールします。

2 答える範囲を整理する

どの小問に何を答えるかを決めます。記述式なら根拠、計算問題なら途中式も残します。

3 必要なときにヒントを見る

ヒントのある問題では「ヒントを見る」を使えます。確認後、自分で続きを考えます。

4 解説を読みたい場合は「この問題を解説」

問題文と図表を学習コーチ内の問題解説モードへ渡します。表示内容を確認し、解説を作ります。

問題の操作	用途
問題をコピー	問題文を他のメモへ貼り付ける。
問題PDF・印刷	問題を紙やPDFで使う。
Gemini問題原文TXT	生成した原文をテキストとして残す。原文がある場合に使える。
条件を変えて新しい問題	出題設定へ戻り、別の条件で作成する。

問題だけと、学習記録を区別する

「問題PDF・印刷」は問題用です。自分の解答と添削まで含めて残したい場合は、採点後の「PDFを出力」などを使います。

解答ウィンドウで答える

問題を見ながら、本文・画像・PDF・音声で答案を用意します。

1

問題を見る

元の学習画面

2

別ウィンドウで解答

四辺・四隅で縦横を変更

3

採点結果を読む

元の画面へ戻る

1 「解答ウィンドウ」を押す

「解答ウィンドウ」を押すと、独立したブラウザーウィンドウが開きます。ウィンドウの枠・四辺・四隅をドラッグして、横幅と縦幅を自由に変更できます。端や角にマウスを置くと、変更方向に合わせてカーソルが変わります。閉じて開き直しても答案と添付資料は保持されます。一度アプリを正常に開いた後は、通信が切れても解答欄を開いて入力できます。採点には接続が必要です。「問題・採点結果へ戻る」で元の画面を表示できます。開かない場合は、このアプリのポップアップを許可してください。端末によっては別タブとして開きます。

2 設問番号を付けて入力する

「問1(1)…」 「問1(2)…」 のように対応を明確にします。理由や途中式が必要な問題は省略しません。

3 ファイル・貼り付け・撮影を使う

画像・PDF・TXT・MDの選択やドロップ、貼り付け、画面取込ができます。画像・PDFは15MB以下。「音声を添付」はMP3・MP4を100MBまで併用でき、MP4は送信時にMP3へ変換します。「A4へ手書き」「カメラで撮影」「写真を補正」も使えます。

4 「採点・添削する」を押す

未記入の設問がある場合は、それも自分で把握して送ります。処理完了まで画面を閉じずに待ちます。

添削前の確認

PDFは「2,4-5」のように指定し「確定」を押します。指定を変えたら再確定してください。本文・画像・音声を確認し、採点に失敗した場合は入力を残したまま再実行できます。

紙の問題・答案を取り込む

撮影後に範囲と画質を確認すると、文字や図表を読み取りやすくなります。



使い方	選ぶ方法	確認する場所
複数枚の問題や答案をまとめる	PDF	四隅を紙の輪郭へ合わせ、追加撮影でページを増やす。
1問・図表などを切り出す	画像	点線枠の上下左右を動かし、必要な部分を1枚に収める。

1 「カメラで撮影」を押す

PDFまたは画像を選びます。カメラ利用の許可が求められたら許可します。端末の写真から選べる画面では、撮影済み画像も使えます。

2 問題全体が読めるように撮る

設問番号、条件、選択肢、図のラベルまで入れます。答案の場合は、途中式や記述も切らずに含めます。

3 範囲と画質を調整する

PDFは四隅、画像は長方形の点線枠を調整します。補正メニューを試した後、確認画面で薄い文字が消えていないか見ます。

4 取り込んだ内容を確認する

複数ページは順番も確認します。PDFの対象ページを指定する欄が出たら、ページ指定を確定してから次の操作へ進みます。

読めないときは、同じ写真で何度も生成しない

影や反射を避けて撮り直します。小さい文字は問題の近くから撮り、足りない条件は入力欄や補足情報へ書き加えてください。

14 / 学習コーチ

採点・添削結果を読む

点数、根拠、改善例、次の練習をひと続きで確認します。

表示	見るポイント
10点満点の評価	今回の答案の達成度。点数だけで判断せず講評を読む。
項目別評価	内容・根拠・表現などの強みと不足。
読み取った答案	画像入力の場合などに、自分が書いた内容と一致しているか。
答案の改善例	自分の答案をどのように直すと伝わるか。
模範解答	正答と、答案へ含めるべき要素。
採点・修正ポイント	どの箇所を、どの理由で直すか。
知識・考え方／解き方	用語・公式・解法・答案づくりの復習。
セルフチェック・次の一歩	次に自分で確認し、練習する内容。

1 照合 自分の答案と比べる	>	2 修正 直す点を1つ決める	>	3 再確認 別の問題で試す
------------------------------------	---	------------------------------------	---	-----------------------------------

採点への疑問があるとき

元問題と自分の答案を見直し、読取誤りや条件の取り違えがないか確認します。重要な提出物は、教科書や担当者の採点基準とも照合してください。

関連問題で弱点を確かめる

解説を読めたことと、自分で解けることを分けて確認します。

1 前の結果から弱点を選ぶ

採点・修正ポイントと「次の一步」を読みます。「公式の意味」「根拠を書く」など、練習する点を決めます。

2 「弱点から関連問題を作る」を押す

前回の評価をもとに、同じ学習目標を練習する問題を作ります。

3 前の解説を見ずに答える

必要な条件と資料を読み直して解きます。分からなかった箇所も記録します。

4 結果を比較する

前回の弱点を直せたか、同じ誤りが残ったかを確認します。必要なら単元やレベルを調整します。

前回の課題	次に意識すること
理由を書いていない	結論の前に、根拠となる条件・本文を挙げる。
式は合うが計算ミス	途中式を残し、符号と単位を最後に確認する。
英文の構造を取り違えた	主語と動詞、修飾部分を先に分ける。

学習記録を残してから次へ

前の問題・答案・添削を後で比べたいときは、履歴への保存状態を確認し、必要ならJSONやPDFでも保管してから新しい問題へ進みます。

保存方法と出力ボタンを選ぶ

問題だけ、添削を含む記録、復元用データを使い分けます。

操作	残すもの	使う場面
問題PDF・印刷	問題と資料。	紙で解く、配布する。
PDFを出力	学習記録。	答案・添削を読み返す。
Google Docsへ出力	編集できる学習記録。	共有・編集する。
Markdownを保存	テキスト形式の学習記録。	ノートアプリ等で整理する。
JSON書出	このアプリで復元できる結果データ。	端末から後で再表示する。
Google Driveへ保存	問題・答案・評価の履歴。	同じアカウントから振り返る。
Gemini採点原文TXT	生成時の採点原文。	原文を保管する。

採点後は端末へ履歴を残し、Google Driveへ保存します。大きい答案でDriveの容量上限を超える場合は送信せず、端末に保存済みの案内を表示します。「JSON書出」で本文・原本・指定ページ・音声・評価をまとめて保管してください。通常容量の履歴はDriveからも復元できます。

PDFは保存先を確認

出力・印刷画面で「PDFに保存」を選び、問題と答案、必要な添削が入っているかプレビューを確認します。ダウンロード後もファイルを一度開くと確実です。

学習履歴とJSONで再開する

以前の答案を開き、どこが改善したかを振り返ります。

1 「学習履歴」を開く

保存時のGoogleアカウントで認証します。履歴は「000Faith-SW-データベース」内の学習コーチ用フォルダーに保存されます。

2 検索・絞り込みを使う

科目やレベルで探し、過去の問題・解答・採点結果を再表示します。

3 一覧を更新する

見つからない場合はアカウントを確認し、「Google Driveを更新」を押します。

4 JSONから開く

上部の「JSON読込」で、このアプリが書き出したJSONを選びます。Google認証は不要です。現在の表示が必要なら先に「JSON書出」します。

データ	役割
入力途中の下書き	本文・添付・PDFの指定ページを残し、同じブラウザで続けるための保存。
Driveの学習履歴	過去の問題・答案・添削をアカウントから参照。
端末へ書き出したJSON	対応するアプリへ読み込んで結果を表示。
PDF・Markdown	読む、配布する、外部のノートへ保管する。

保存場所は同じではありません

サイトデータを消すと、入力途中の下書きが失われることがあります。保存済みのDrive履歴は別の場所に残ります。大切な記録は目的に合う形式で書き出してください。

困ったときの確認順

設定、入力、認証、処理ログを順に見ます。

症状	対処
問題が作れない	学年・科目・単元・レベルを確認し、単元を1つ以上選びます。
自由作成が進まない	追加プロンプトは任意です。学年・科目・単元・認証と処理ログを確認します。題数や構成を指定したい場合は指示を入力します。
類題の作成ボタンが押せない	元問題の判定後、類題の難易度を選んだか確認します。
PDFを使えない	対象ページを「確定」したか、必要な条件を含めたか確認します。
Drive資料を参照できない	認証アカウントの閲覧権限、ファイルURL、形式、サイズ・件数を確認します。
採点が始まらない	解答欄や添付に答案があるか、認証・モデル設定・通信を確認します。
採点が自分の答案と合わない	画像の読取結果、設問番号、問題と答案の対応を確認します。
処理が止まった	ログの待機・自動再試行・エラーを確認します。待機が終了した場合は原因を確認し、元の実行ボタンで再実行します。
履歴が見つからない	保存時のGoogleアカウントで、Driveの更新を押します。
JSONを読めない	学習コーチで書き出したJSONか確認します。作問・採点用と問題解説用のJSONは、それぞれのモードの読込ボタンを使います。

通信エラーの扱い

ログ枠を閉じてても処理は続く場合があります。入力と結果を残し、エラー文を確認してから再試行します。画面の再読み込みは、必要な記録を保存してから行います。

毎日の起動・更新・終了

ブラウザから利用でき、対応する端末ではアプリとして追加できます。

端末	追加の操作
WindowsなどのPC	アプリ内の「インストール」、またはブラウザのインストール機能を使います。表示名や場所はブラウザによって異なります。
iPad・iPhone	Safariで開き、共有メニューから「ホーム画面に追加」を選びます。
その他の端末	ブラウザにアプリ追加・ホーム画面追加の項目がある場合に利用できます。

終了前にすること

1 処理中か確認する

AI処理やファイルの保存が進行中なら、完了または中断を確認します。ログ枠を閉じるだけでは処理の中止にならない場合があります。

2 残したい結果を保存する

共有・印刷用ならPDF、画面へ戻す用途なら各アプリのJSONや履歴など、目的に合う方法で保存します。

3 次回の入口をそろえる

端末内のデータを使うときは、同じ端末・同じブラウザ・同じアプリのURLから開きます。

古い画面が表示されるとき

作業を保存してからページを再読み込みします。インストール済みアプリは一度終了して開き直します。先にサイトデータを消すと、端末内の下書きや注釈を失う場合があるため、保存を済ませてください。

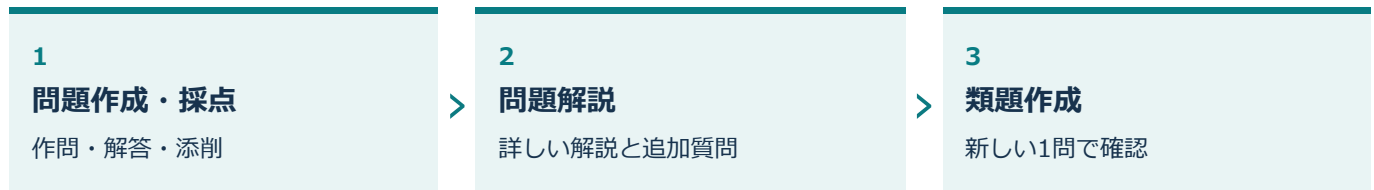
アプリの削除と保存データ

削除は端末のアプリ一覧やホーム画面から行います。Google Driveへ保存したデータと端末内データは保存場所が異なります。大切なファイルは削除前に別途保存してください。

共通バーで問題解説を使う

上部の機能バーは学習コーチ全体で共通です。「問題解説」で表示を切り替え、「問題入力・解説」「類題作成」「AIへ追加質問」を使います。Google認証・モデル設定、JSON入出力、マニュアルは同じボタンから操作します。画面が狭い場合は上部バーを横にスクロールします。

問題作成・採点と、持ち込んだ問題の詳しい解説を、学習コーチの中で切り替えます。



切り替える

上部の「問題解説」を押すと解説画面を開きます。「問題作成・採点」で元の学習画面へ戻ります。切り替えても、それぞれの入力途中の内容は残ります。GoogleアカウントとGeminiモデルは共通で使います。

いま解いている問題を解説する

1 「この問題を解説」を押す

問題文と図表・資料を解説画面へ渡します。採点済みの場合は模範解答・添削理由・関連知識も表示するので、同じ説明を再生成する必要はありません。

2 表示内容を確認する

解説画面に別の入力が残っている場合は、置き換えるか確認します。取り消すと元の内容は残ります。未採点の問題は、教科と資料を確認して「解説を生成」を押します。

3 必要な箇所を追加質問する

途中式や文章を指定して質問し、理解できたら「類題作成」で練習します。

2つの学習内容は別々に保存

解説モードを開くだけで、問題作成・採点の問題・答案・評価が書き換わることはありません。問題の受け渡しや新しい類題への切替では、画面の確認文を読んで進めます。

問題解説 / 2

解説する問題と資料を用意する

問題文だけでも、画像・PDF・音声だけでも、組み合わせても解説できます。

1 「問題入力・解説」を開く

本文を入力し、必要な条件や選択肢も含めます。別の問題に切り替えるときは、保存を確認してから「新しい問題」を使います。

2 資料を追加する

「画像・PDF」と「リスニング音声」でファイルを選びます。入力欄へのドラッグ&ドロップ、画像・文字の「貼り付け」、「画面取込」も使えます。画像・PDFは15MB以下、MP3・MP4は100MB以下です。

3 PDFの対象ページを確定する

「1,3-5」のように指定して「確定」を押します。変更したら再確定します。パスワード付きPDFは正しいパスワードを入力してください。必要な設問と図表が含まれるか確認します。

4 教科と詳しさを選ぶ

英語・国語・社会・理数から選びます。画像やPDFの仮判定が違うときは直してください。社会や理数では科目、理数では解法レベルも確認します。

5 「解説を生成」を押す

最初に問題解説、続いて語彙・文法や用語・公式などの関連解説を生成します。2段目の処理中も、出そろった解説を読めます。

紙の問題を取り込む

「カメラで撮影」で画像またはPDFを選びます。範囲と画質を補正し、PDFは追加撮影で複数ページをまとめられます。取り込んだPDFのページを確定してから生成します。

音声の扱い

MP4は音声をMP3へ変換してから送信し、元ファイルは変更しません。音声がなく、または端末で読み取れない場合は、案内を確認して再生できるMP3を選んでください。

教科別の解説を読み分ける

問題、問題解説、関連解説の3つのタブで、条件と考え方を確認します。

タブ・教科	確認する内容
問題	元の文章、図表、添付資料。解説の前提が合っているか照合します。
問題解説	考え方、解答、根拠、途中式。追加質問の回答もここに表示します。
英語の関連解説	語彙・文法・読解。文構造や表現を復習します。
国語の関連解説	語句・文法・背景。古文・漢文の読み方や意味を確認します。
社会の関連解説	用語・背景。出来事や制度のつながりを整理します。
理数の関連解説	用語・公式・関連情報。式番号、図形、グラフなどを説明と対応させます。

読みやすい表示にする

「+」「-」で文字の大きさを変えます。国語の「縦書き」「横書き」で向きを切り替えられます。漢文の返り点・送り仮名、ルビ、数式や図表は、本文と一緒に確認します。「コピー」は表示しているタブの内容をコピーします。

処理ログを見る

ログの見出しをドラッグすると移動でき、端や角で大きさを変えられます。「×」はログ表示だけを閉じ、上部の「ログ表示」で再表示します。処理を止める操作とは異なります。

途中まで表示された場合

第2段の関連解説だけが失敗した場合も、表示できた問題解説と元の資料は残ります。ログの案内を確認してから再実行します。AIの説明は問題文や教科書とも照合してください。

資料を添えて追加質問する

解説を読みながら、別の写真・PDF・文章・音声を追加して質問できます。

1 「AIへ追加質問」を押す

問題解説を表示したまま質問ウィンドウを開きます。見出しをドラッグして移動し、端や角で大きさを調整できます。

2 質問と追加資料を用意する

「画像・PDF・TXT」または音声の選択ボタンから複数ファイルを追加します。ドラッグ&ドロップ、画像・本文の貼り付け、画面取込、カメラ撮影も利用できます。本文なしで資料だけを追加して質問することもできます。

3 PDFの対象ページを確定する

追加したPDFごとにページを入力して「確定」を押します。カメラでPDFを作った場合も、必要なページを確認してください。

4 送信して回答を読む

現在の問題解説と会話の流れを踏まえて回答します。送信に失敗した場合は質問本文と添付が残ります。成功後は入力中の添付が空になり、会話にファイル名とPDFのページ指定が記録されます。

資料	使い方・上限
画像・PDF	1ファイル15MBまで。PDFはページを確定します。
TXT	1ファイル1MB、合計2MBまで。本文資料として読み込みます。UTF-8やShift JISなどに対応します。
MP3・MP4	1ファイル100MBまで。MP4はMP3へ変換して送信します。

最初の問題はそのまま

追加質問の添付は、最初の問題資料と別に扱います。問題と解説を上書きせず、補足や比較のために使えます。対象が多すぎる場合は案内に従って質問を分けてください。

解説から類題へ進む

理解した内容を新しい1問で確認し、解答と採点まで学習コーチの中で続けます。



1 元問題を確認する

科目、問題文、図表、解答条件に不足がないか確認します。問題作成・採点側の今の問題や答案も残したいときは、履歴やJSONへ保存します。

2 上部バーの「類題作成」を押す

元問題と資料をもとに、学習コーチが科目・単元・問題レベルを判定して類題を作成します。別のアプリを開く操作は不要です。

3 置き換えの確認を読む

問題作成・採点側に学習中の内容がある場合は確認します。取り消した場合や生成に失敗した場合は、元の問題と答案を保持します。

4 新しい問題へ解答する

作成後は問題作成・採点画面で解きます。元の解説を見ずに解けるか試し、採点結果から次の練習を選びます。

科目や認証の案内が出るとき

英作文の元問題は英作文として扱います。科目や単元を判定できない場合は、無関係な問題を作らず案内を表示します。元問題や教科を確認してください。Google認証・モデルが未設定の場合は先に設定を完了し、画面の案内に従って再開します。

戻って復習する

「問題解説」を開き直せば元の解説を確認できます。新しい問題を渡すまで、解説側の資料と会話は保持されます。

解説の保存と再開

上部バーの「学習履歴」「JSON書出」「JSON読込」を共通で使います。学習履歴は現在表示している演習・解説の記録を開きます。

解説画面の操作	使う場面
学習履歴	保存した問題・解説・関連知識・追加質問を再表示。未解説の問題から後で生成することもできます。
JSON書出／JSON読込	資料と結果を端末のファイルに保存し、解説画面へ読み戻します。Google認証は不要です。
Google Docs	問題解説・関連解説・追加質問を、編集・共有できる文書として出力します。
PDF・印刷	問題、問題解説、関連解説を印刷用に保存。プレビューで画像、図表、改ページを確認します。
Gemini解説原文TXT	生成時の解説・関連解説・会話の原文をテキストに保存します。
コピー	現在表示しているタブの文章をほかへ貼り付けます。

保存した解説を開く

「問題解説」へ切り替えて「学習履歴」を開きます。Driveの履歴は保存時と同じGoogleアカウントで確認します。解説用の履歴は「000Faith-SW-データベース」の「学習コーチ-PWA-問題解説」に保存され、問題作成・採点の履歴とは分かります。

JSONとPDFを使う

上部バーの「JSON読込」は共通です。演習用・解説用のJSONを自動で判別し、対応する表示へ切り替えます。「JSON書出」は現在表示している学習内容を保存します。読み込む前に現在の内容も残したい場合は書き出してください。PDFでは印刷先を「PDFに保存」にし、縦書きの向きも確認します。

以前のデータ

従来の学習コーチの履歴はそのまま使えます。以前の問題解説アシスタントの履歴は元のアプリに残ります。大切な資料と結果はJSONやPDFにも保存してください。

AI処理の進み具合と再実行

大きいPDF・画像と音声

PDFは必要なページを選びます。大きい添付資料は自動で小分けに送信し、資料の内容を揃えてから解析します。転送中は処理ログで進み具合を確認できます。

音声として添付したMP4などは、端末内で音声を取り出してMP3を準備してから送信します。元のファイルは変更しません。準備中は画面を閉じずに待ってください。音声が含まれない場合や端末で読み取れない形式の場合は、案内を確認し、再生できるMP3などの音声ファイルを選び直してください。

混雑・通信切断・不完全な応答

問題生成に時間がかかる場合も進捗を通知しながら待機します。一時的な混雑や通信の失敗、本文が欠けた応答は、待ち時間を置いて自動で再試行します。処理ログで状況を確認し、同じ実行ボタンを続けて押さずにお待ちください。再試行には回数と待機時間の上限があります。

処理が完了しなかったとき

自動で回復できない場合はエラーを表示し、応答待ちを終了します。問題解説が完成し、続く用語・背景などの解説で失敗した場合は、完成した問題解説を残します。同じ問題と設定で「解説を生成」をもう一度押すと、未完了の解説から再開します。問題文・添付・設定を変更した場合は問題解説から作り直します。処理中は進み具合をログで確認できます。入力した内容は残るので、エラーの原因を確認し、必要な条件を直して元の実行ボタンから再実行してください。中止ボタンのある機能は、待機中や再試行中も中止できます。

認証・利用上限の案内が出たとき

Google認証やGeminiモデルの設定を確認します。利用上限・権限不足・使用できないモデルの案内は、同じ要求を繰り返しても解決しません。画面の案内に従って設定を確認するか、利用可能になるまで待つから再実行してください。

Googleドライブから開く・保存する

ファイルを開くときや書き出すときは、読み込み元・保存先で「端末」または「Googleドライブ」を選びます。Googleドライブを利用するときは、先にアプリのGoogle認証を完了してください。Drive画面に表示される認証アカウントを確認します。フォルダーは選択ウィンドウの横幅いっぱい、階層が分かるツリー形式で表示します。「選択して開く」「このフォルダーに新規保存」「キャンセル」などの操作ボタンはツリーの右下にあります。フォルダー行をクリックすると選択され、子フォルダーがある場合は展開・折りたたみが切り替わります。選択中のフォルダーは緑色で強調され、上部にその階層を表示します。読み込み時は選択したフォルダーを展開し、ツリー内に表示されるファイルヘチェックを付けます。ファイル名でDrive全体を検索すると、ツリー内の「Drive全体の検索結果」から選べます。「フォルダーツリーを更新」で最新のフォルダー一覧を取得できます。複数選択に対応した操作では、複数のファイルにチェックを付けられます。

保存するときは保存先フォルダーとファイル名を指定し、「このフォルダーに新規保存」を押します。同名のファイルがあっても上書きせず、新しいファイルとして保存します。保存後はGoogleドライブで保存先フォルダーのファイルを確認できます。「キャンセル」で操作を中止できます。カメラ撮影とフォルダー一括取り込みは端末から行います。Driveの通常ファイルの読み込みと保存は16MBまでで、各操作が対応する形式だけを選択できます。音声を扱う操作では、MP4は16MBを超えていても選択でき、取り込み時に音声をMP3へ変換します。端末から選んだMP4も同様に変換します。音声がないMP4や対応していない音声形式は変換できません。変換の進捗を表示し、「キャンセル」で中止できます。大きなファイルは読み込みと変換に時間がかかります。Googleドキュメント・スプレッドシート等はPDFやTXT等へ書き出してから選択してください。認証エラーが出た場合は選択画面を閉じ、アプリでGoogle認証をやり直してください。ブラウザーの印刷画面で行うPDF保存は、印刷画面の保存先を使います。

つまずきの確認と後日の復習

上部の薄緑色の「つまずき・復習」を開き、「現在の教材を取り込む」で対象の1設問・文章を確認します。教科、単元、学年、自分の答案を必要に応じて直し、解答や翻訳を既に見た場合はチェックを付けます。不要な個人情報や範囲は取り除いてください。「この範囲でつまずきを確認」から、最大3つの短い質問に選択肢で答えます。「分からない・飛ばす」も選べます。

原因候補は「仮説」「確認課題で支持」「未特定」を区別します。違う点は訂正欄へ入力し、問診をやり直せます。文字や条件が読めない場合は資料を直して、新しい学習を開始してください。AIの判定に違いがあれば、試行の詳細から理由を入力して保留にできます。

元の問題、原因を確かめる1問、同じポイントの練習、考え方の説明、条件を変えた応用、後日の再確認を選べます。ヒントは着目箇所・使う知識・最初の一手の3段階です。答えは「解答・解説を見る」で表示します。ヒント・答え・原文を使った成功と、自力でできた成功は別に記録されます。「自力でできた」という自己申告だけでは習得確認になりません。

新しい確認問題で自力正答すると、翌日・3日後・7日後の復習候補が入ります。日付は変更できます。「履歴・今日の再確認」から保存済みの学習を再開します。途中の選択や答案は端末に保存され、Googleアカウントごとに区別されます。生成にはGoogle認証と通信が必要です。中断時は同じ操作を再実行でき、別の操作が先に進んだ場合は「サーバーの進行を再開」を押します。

「Driveへ保存」で学習記録を保存できます。「学習支援JSON保存」で書き出し、他の対応アプリで「学習支援JSON読込」を押すと、学習者・内容・版を確認してから取り込めます。同じ版・古い版は重複登録しません。別アプリから取り込んだ原因は計画に利用でき、AIによる練習を再開するときは原因を訂正して問診をやり直します。要約はテキスト・PDF・Google Docsへ出力でき、PDFはブラウザーの印刷画面で保存します。JSONには添付資料も含まれるため、共有先を確認してください。

演習の問題・答案、問題解説で扱う文章・資料を取り込めます。英作文では語数や構文条件を単元欄で確認してください。従来の採点・解説・追加質問も引き続き使えます。

資料の準備中は完了まで待ってください。「応答中断」で準備を止めた場合も、対象の本文を確認して再開できます。問題と本人の答案に含まれる音声資料も引き継ぎます。MP4は音声を取り出してから学習に使います。

別の端末で履歴を開いたときなどに「サーバーの再開情報がありません」と表示された場合は、原因の訂正欄に「再開のため」と入力し、問診をやり直してください。これまでの答案・試行と復習予定を残して続けられます。

リスニング問題の講義音声

問題作成・類題作成で英語の講義音声を聞く問題を指定すると、講義トランスクリプトに加えてMP3音声を作成します。要約や自由英作文の語数・内容は追加プロンプトで指定できます。問題表示の右上にある音声プレーヤーで再生・一時停止・再生位置の変更ができます。「トランスクリプトを確認」で原稿を開けます。

作成後は保存先として端末内またはGoogleドライブ内のフォルダーを選びます。同じ画面で続けて音声を作成すると、その保存先へ格納します。「保存先を変更」で別のフォルダーを選べます。「MP3を保存」で保存し直せます。端末フォルダーの指定は対応するEdge・Chromeで利用してください。端末のアクセス許可が切れた場合は保存先を選び直します。

音声は問題と学習履歴に保持され、履歴を再開すると再生できます。音声の生成に失敗しても問題と原稿は残り、「音声を作成」で音声だけを再試行できます。「音声生成を中止」で中断できます。音声生成にはGoogle認証とGemini音声生成の利用権限・利用枠が必要です。

アプリの更新案内

ページ更新が必要な更新を検出した場合だけ、案内ダイアログを表示します。作業中の内容を保存してから、ブラウザーのページ更新（円の矢印マーク）を押してください。案内を閉じて自動では再読み込みしません。更新済みの場合や、更新を確認できない通信状態では表示しません。

解答ウィンドウの移動とサイズ変更

解答ウィンドウは上部のタイトルバーをドラッグして移動します。「あなたの解答」周囲や下部などの余白では移動しません。サイズを変更するときは、ウィンドウの端または角をドラッグしてください。解答の入力や文字の選択は、入力欄や本文内で行います。

PDFの紙面を見てページを選ぶ

PDFを取り込んだら、ページ指定欄の「ページを見て選ぶ」を押します。ページ番号と紙面を確認し、使うページにチェックを付けてください。「前のページ」「次のページ」や表示ページ番号で移動でき、表示倍率で拡大できます。「選択したページを入力」で元の欄へ反映し、元の画面の「確定」で使用ページを確定してください。「閉じる」で戻った場合、元の指定は変更されません。

類題の条件を編集してから作成する

「類題作成」を押すと元問題を分析し、「AIで問題を作成」タブを表示します。追加プロンプト、科目、単元、作成方法などを確認・編集してから、問題作成ボタンを押してください。問題入力で「類題を作成」を選んだ場合も、分析後に同じタブで条件を編集できます。

講義MP3を端末フォルダーへ保存する

MP3作成後の保存先選択で「端末内のフォルダー」を押すと、端末のフォルダー選択画面を開きます。保存先を選択して保存してください。選択を取り消してもMP3は残り、「MP3を保存」からやり直せます。「保存先を変更」で別のフォルダーを指定できます。

PDFの保存先を選ぶ

PDF保存・PDF出力・印刷の操作では、アプリ内で「端末」または「Googleドライブ」を選びます。Googleドライブを選ぶと認証済みアカウントのフォルダーツリーを表示するので、保存先とファイル名を指定して「このフォルダーに新規保存」を押してください。同名のファイルがある場合も新しいファイルを作成します。取り消しても表示内容は残ります。端末を選んだ場合は、ブラウザーの印刷画面またはファイル保存画面で保存します。

Googleドライブへ出力するPDFは、Googleの文書形式に合わせて表・文章を整えるため、端末の印刷PDFとページ区切りや配置が異なる場合があります。保存できるファイルは16MBまでです。

解答ウィンドウの移動

解答ウィンドウの移動は、ウィンドウ最上部のタイトルバーをつかんで行います。「あなたの解答」の見出しや、その周囲・入力欄・採点ボタン付近の余白では移動しません。ウィンドウ外枠の四辺・四隅ではサイズを変更できます。

解答ウィンドウの左辺・上辺の操作

サイズ変更はウィンドウ外枠の四辺・四隅をつかんで行います。左辺なら左辺、上辺なら上辺が動き、反対側は固定されます。画面内の余白や見出しには移動・サイズ変更の領域はありません。移動には最上部のタイトルバーを使います。

PDF保存時の表示

PDF保存では、別のプレビュー用ウィンドウを開かず、元の画面で保存先選択を表示します。「端末」または「Googleドライブ」を選んでください。端末を選ぶとブラウザーの印刷・保存画面に進みます。キャンセルしても元の内容は残ります。

講義MP3を端末へ保存する

保存先で「端末」を選びます。フォルダー選択に対応するブラウザーでは保存先フォルダーを指定します。フォルダー選択が利用できない・拒否された場合は、端末へのダウンロードで保存します。保存先はブラウザーの設定に従います。フォルダー選択をキャンセルした場合もMP3は残り、「MP3を保存」から再度保存できます。

図表の文字が重なる場合

図表の複数行ラベルは改行して表示します。文字の重なりを検出した図表は表示せず、新しく作成した問題も採用しません。メッセージが出た場合は、問題を再作成してください。それまでの問題と解答は保持されます。

音声付きの問題を解説へ引き継ぐ

「問題解説」では、問題に添付したMP3と作成済みの講義MP3も解説へ引き継ぎます。MP4がある場合は、音声をMP3に変換してから渡します。変換できない場合は引き継ぎを停止し、元の問題と音声を保持します。音声のあるMP4が確認して、もう一度実行してください。

問題の音声を再生する

問題入力にMP3を添付して問題を表示すると、問題表示タブの右上に「音声（mp3）」を表示します。問題作成時と同じプレーヤーで再生・一時停止・再生位置の変更ができます。「MP3を保存」「保存先を変更」も同じ操作で利用できます。添付した音声は問題と履歴に保持されます。原稿がある作成済み音声は「トランスクリプトを確認」で原稿を開けます。

解答のカウント表示

解答ウィンドウには現在のカウント数だけを表示します。英作文は語数、それ以外は文字数を数えます。目標語数などの条件は問題の指定条件で確認してください。

つまずき・復習ウィンドウの操作

「つまずき・復習」は独立したウィンドウで開きます。最上部のタイトルバーをつかむと、元のブラウザーの外へも移動できます。外枠の四辺・四隅で拡大・縮小できます。画面内の見出しや余白では移動しません。「閉じる」またはウィンドウの閉じるボタンで閉じ、同じボタンから再開できます。元のアプリを閉じると、このウィンドウも閉じます。開けない場合はブラウザーでこのアプリのポップアップを許可してください。

Gemini応答の中断

問題解説の応答中は、問題入力欄を閉じていても、解説表示欄または応答ログの中断ボタンで停止できます。Geminiの応答中は、応答ログまたは処理中のウィンドウの中断ボタンで停止できます。入力と添付資料は保持され、同じ操作で再実行できます。つまずき・復習では「Gemini応答ログ」を開いて中断できます。問題作成後に「問題解説」タブを開くと、その問題とMP3音声を引き継ぎます。同じ問題でタブを行き来しても、解説側で編集した入力は保持されます。

リリースノート

アプリの修正・追加内容を新しい順に掲載します。マニュアル自体の更新内容ではなく、過去の履歴も継続して掲載します。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年10月10日	問題解説の応答中は、問題入力欄を閉じていても、解説表示欄または応答ログの中断ボタンで停止できます。
2026年10月10日	- Gemini応答を、応答ログと処理中のウィンドウから中断できるようにしました。中断後も入力と添付資料を保持します。 - 問題作成後に「問題解説」タブを開くと、その問題とMP3音声を引き継ぎます。同じ問題でタブを行き来しても、解説側で編集した入力は保持されます。
2026年10月10日	問題入力のMP3を読み取る際に、音声原稿も同じ結果として取得・保持し、TXT保存できるようにしました。原稿を取得できなかった場合はメッセージを表示し、入力を保持します。
2026年10月10日	問題入力・問題作成の音声再生欄に、トランスクリプト全文をTXTファイルで保存するボタンを追加しました。保存先は端末またはGoogleドライブを選択できます。
2026年10月10日	つまずき・復習を独立ウィンドウに変更し、ブラウザーの外への移動と標準の外枠による拡大・縮小に対応しました。閉じて開き直しても入力・問診・学習内容を保持します。
2026年10月10日	- 問題入力に添付したMP3を、問題表示タブ右上の既存音声プレーヤーで再生・保存できるようにしました。入力した問題・作成した問題の表示を「音声（mp3）」「音声mp3を再生できます」「トランスクリプトを確認」に統一しました。 - 解答ウィンドウの語数・文字数表示を現在のカウント数だけにし、目標語数などの制限表示を除きました。
2026年10月10日	解答ウィンドウの四辺・四隅のサイズ変更を端末標準のウィンドウ枠へ統一しました。画面内の透明なリサイズ領域を撤去し、左辺・上辺で反対側が動く不具合とカーソル位置のずれを解消しました。
2026年10月10日	問題解説への引き継ぎに、問題の添付MP3と生成済みの講義MP3を含めるようにしました。MP4はMP3へ変換して引き継ぎ、変換失敗時は元の問題・音声を保持します。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年10月10日	図表・グラフの複数行ラベルで改行位置が失われて文字が重なる不具合を修正しました。文字の重なりを検出した図表は表示せず、新規問題への採用を止め、以前の問題と解答を保持します。
2026年10月10日	リスニング用の講義MP3で、フォルダー選択が使えないブラウザや選択を拒否された場合も「端末」を選べるようにしました。作成済みMP3を保持し、端末へのダウンロードで保存します。
2026年10月10日	PDF保存の際に別のプレビュー用ウィンドウを表示せず、元の画面で保存先選択を行うようにしました。
2026年10月10日	解答ウィンドウの左辺・上辺のサイズ変更時にウィンドウの位置も動く処理を削除しました。画面内ではサイズだけを変更し、移動は端末の最上部のタイトルバーで行います。
2026年10月10日	解答ウィンドウ内の「あなたの解答」の見出し・周囲の余白を含むドラッグ移動を停止しました。移動は端末のウィンドウ最上部のタイトルバーのみで行い、四辺・四隅でのサイズ変更は維持しています。
2026年10月10日	PDF保存・出力の保存先でGoogleドライブを選び、フォルダーとファイル名を指定してPDFを保存できるようにしました。端末への印刷・保存も選択できます。
2026年10月10日	- 講義MP3の端末内フォルダー選択を開く前にアプリ内の保存先画面を閉じ、キャンセル後も保存先を選び直せるようにしました。 - 類題作成は元問題の分析後に問題作成タブを表示し、追加プロンプトなどの条件を編集してから生成するようにしました。
2026年10月10日	解答ウィンドウの余白ドラッグによる移動を無効にし、上部のタイトルバーからのみ移動するようにしました。余白の操作でウィンドウや採点ボタンが細かく揺れることを防ぎます。
2026年10月10日	解答ウィンドウの余白をドラッグして移動した際に、下部の「採点・添削する」ボタンの配置が乱れる不具合を修正しました。タイトルバーと余白のどちらでも、サイズとスクロール位置を保って移動できます。
2026年10月10日	PDFのページ指定欄に、ページ番号と紙面を確認しながら使用ページを選べるビューワーを追加しました。前後の移動・ページへのジャンプ・拡大表示・複数ページ選択を利用できます。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年10月10日	Windowsの表示倍率によって「あなたの解答」周囲をドラッグするたびに解答ウィンドウが拡大する不具合を修正し、繰り返し移動しても大きさを保つようにしました。
2026年10月10日	解答ウィンドウの余白をドラッグした際に勝手に拡大する不具合を修正しました。タイトルバーと余白ではサイズを保って移動し、端・角でのみサイズを変更できます。
2026年10月10日	アプリの更新内容を判定し、ページ更新が必要な場合だけ、保存してからブラウザーの円の矢印マークを押す案内を表示します。
2026年10月10日	- 問題作成・類題作成で講義音声を求めるリスニング問題に、講義原稿から作成したMP3音声を追加しました。 - 講義MP3を端末またはGoogleドライブの指定フォルダーへ保存でき、問題表示の右上で再生・一時停止・再生位置の変更ができます。 - 講義音声を学習履歴に保持し、音声生成に失敗した場合は問題と原稿を残して音声だけを再作成できます。
2026年10月10日	- Googleドライブのフォルダーツリーを選択ウィンドウの横幅いっぱいに表示し、開く・保存・キャンセルのボタンをツリー右下に配置しました。 - ファイル選択時は、選択したフォルダー内の対応ファイルをツリー内に表示し、チェックを付けて開けます。 - 音声入力で、サイズ上限を超えるMP4も選択し、取り込み時にMP3へ変換できるようにしました。
2026年10月10日	- 問題解説と用語・背景などの解説の長時間待機・進捗通知・一時的な通信失敗の自動再試行を改善しました。後半で失敗しても完成した問題解説を保持し、同じ問題と設定で未完了の解説から再開できます。 - 追加プロンプトをすべての作成方法で任意にしました。「自由に問題作成」でも未入力で、選択した学年・科目・単元から問題を作成できます。
2026年10月09日	解答用の別ウィンドウを、一度アプリを開いた後はオフラインでも開いて入力・再表示できるようにしました。
2026年10月09日	- 問題生成に時間がかかる場合の待機時間を延ばし、進捗表示と一時的な通信失敗の自動再試行を改善しました。失敗時には通信状態と所要時間を表示し、入力条件と前の問題を保持します。 - 解答を独立したブラウザーウィンドウで開くように変更しました。四辺・四隅のドラッグで横幅と縦幅を変更でき、閉じて開き直しても本文・PDF・画像・音声を保持します。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年10月09日	追加した学習支援ボタンの文字を濃く太くし、背景との見分けやすさを改善しました。マウスを重ねたときや操作できない状態でも文字を読み取れます。
2026年10月09日	Googleドライブのフォルダー選択を、階層を展開・折りたたみできるツリー形式に変更しました。選択したフォルダーを強調表示し、読み込み元・保存先を確認できます。
2026年10月09日	保存した学習履歴にサーバー側の再開情報がない場合も、過去の試行を保持して問診から続けられるようにしました。
2026年10月09日	学習支援への問題・答案の音声資料の引き継ぎと、資料準備中の中断を改善しました。
2026年10月09日	- つまずきの問診、3段階ヒント、原因別の確認問題、自己説明・応用、日を空けた再確認を追加しました。 - ヒントや解答の利用と自力成功を分けて記録し、学習支援履歴の保存・JSON連携に対応しました。
2026年10月09日	Googleドライブで選択した保存先へファイルを新規保存する処理を改善しました。
2026年10月09日	ファイルの読み込み元と保存先で、端末に加えて認証したGoogleドライブを選べるようにしました。
2026年10月05日	- 問題入力・解説、類題作成、AIへの追加質問と結果表示を学習コーチの画面へ直接統合し、上部バーを一つにまとめて表示領域を広く使えるようにしました。 - Google認証・モデル設定、履歴とログの入口、マニュアルを共通化しました。JSON読込は演習用・解説用を自動判別し、JSON書出は表示中の学習内容を保存します。 - 演習と解説を切り替えても、問題・答案・追加質問の入力と添付資料を保持します。狭い画面では上部バーを横にスクロールして操作できます。
2026年10月05日	- 学習コーチ内に問題解説モードを追加し、英語・国語・社会・理数の解説、関連知識、資料付き追加質問、縦書き・数式・図表の表示、履歴と各種出力を利用できるようにしました。 「この問題を解説」で現在の問題・資料・採点済みの解説を同じ画面へ渡し、「類題作成」から学習コーチ内で新しい問題の作成と採点まで進めるようにしました。 2つのモードでGoogleアカウントとモデル設定を共用し、入力途中の内容と履歴は分けて保持するようにしました。従来の問題・答案・評価の履歴も引き続き使えます。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年10月05日	- 解答ウィンドウに画像・PDF・テキストのファイル指定、ドラッグ&ドロップ、画像・本文の貼り付け、画面取込、MP3・MP4の音声添付を追加しました。 - 答案PDFのページ指定と確定、画像・PDFと音声の併用に対応し、MP4は音声をMP3へ変換して採点へ送信するようにしました。手書き・撮影・印刷も引き続き使えます。 - 答案の本文・原本・指定ページ・音声を下書き、履歴、JSONに保持し、通常容量ではDriveからも復元できるようにしました。容量の大きいDrive保存は事前に検知し、端末保存とJSON書き出しを案内します。
2026年10月05日	- 教材や答案の大きい添付資料を小分けに送信し、音声用のMP4などをMP3へ準備して送信容量を抑えるようにしました。 - 問題作成・読取・採点などのGemini通信で、一時的な失敗を自動再試行し、認証や利用上限の案内を確認して再実行できるようにしました。
2026年10月02日	学習コーチの「解答・解説」で、既存の模範解答・添削理由・解説・関連知識を問題解説アシスタントへ渡し、再生成せず表示・保存できるようにしました。
2026年10月02日	前回の教科表示が理数でも、問題文で英作文と指定された類題は英作文として作成するよう修正しました。
2026年10月02日	- 英作文の類題を別科目へ置き換えないようにし、元問題の科目・単元を判定できない場合は生成を停止するよう修正しました。 「解答・解説」で問題文・図表・入力資料と英作文の条件を問題解説アシスタントへ引き渡すよう改善しました。 - 初回は設定済みサンプル、2回目以降は前回の問題・答案・採点結果を表示するよう修正しました。
2026年10月01日	問題解説アシスタントからの問題を確実に受け取り、Google認証・モデル設定前でも保持して、設定後に類題作成を再開できるようにしました。
2026年09月21日	「自由に問題作成」を追加し、追加プロンプトで題数・構成・見出し・出力形式を指定できるようにしました。 - 自由作問の結果に不要な外枠見出しや設問番号が重なる場合に、問題文を整えて表示するよう改善しました。 - 採点時に、漢字・日本語文法・日本語表現の誤りも確認できるようにしました。
2026年09月20日	- 追加プロンプトへGoogle DriveまたはGoogle DocsのファイルURLを貼り、問題作成や類題作成の必須資料として利用できるようにしました。 - PDF、画像、テキスト、Markdown、Googleドキュメント、スプレッドシート、スライドの参照に対応しました。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年09月19日	• 自分の問題を、直接入力、画像・PDF、カメラ撮影、貼り付け、画面取込から追加できるようにしました。 • 入力した問題をそのまま学習する方法と、同じ学習目標の類題を作る方法を選べるようにしました。

トランスクリプトをTXT保存する

問題入力・問題作成のどちらも、音声（mp3）欄の「トランスクリプトをTXT保存」を押します。「端末」または「Googleドライブ」を選び、保存先とファイル名を指定してください。原稿全文を改行付きのTXTファイルで保存します。取り消しても音声と原稿は残ります。入力したMP3の原稿は、問題を表示する読み取り処理と一緒に取得します。文字起こしの内容は「トランスクリプトを確認」で確認してください。TXT保存操作では、文字起こしのための音声送信を追加しません。以前の履歴などで原稿がない場合はボタンを利用できないため、元のMP3を問題入力で読み込み、問題を表示し直してください。